

次期大統領候補者の横顔

次期大統領候補者の横顔 (一)

國運発展の軌道を加速度的に前進して行く比の大統領候補者、其の將來六十年の政務を執掌すべき正副大統領の選挙日九月五日迄には...

既ラザカル党はマルセル、下アルベール、エンリッケ、モス、社会党はニコラス、レバト及びアルブール、オルガスを候補者として選出、今日正副政府党は現職相ロバート、オルガス及び内相ラモン、カマテ、ヨを指名、...

ラザカル党 副大統領候補 エンリッケ、モスカ (博士) 一八八〇年サンタフェ生まれ、...

ラザカル党 大統領候補 マルセル、下アルベール (博士) 一八六八年武市生まれ、...

便として渡欧、國際聯盟組織計画に參加、第一回総会に團代表としてオソリ、オブレンドンと共に...

見出しである、一九一二年下院前買当選、サンタフェ州政府に於て農務文部部長官として活躍、...

東京十五時間飛行計画

伯林オリンピック大会迄には

伯林十六日(日)フルフトハン航空会社、全機能をあげて研究中である、伯林東京十五時間飛行計画の四年後のオリンピック迄に實現し...

東京の羽田飛行場

國際空の玄関として 設備を充実

(東京十七日)東京の空の港として躍進航空日本を代表する羽田の東京飛行場は最近では多岐にわたる...

満洲移民拡充に關する 大谷拓相の答弁

(東京十六日)滿洲移民拡充に關する答弁、大谷拓相は十五日の衆議院本會で可決、席上先般滿洲を視察した石坂河合、黒田各議員の如き質問あり、...

新考案

左の如き考案あり、此の計画に日韓のついでと云はれる、この考案と云ふのは空気の抵抗を極度に制限するための特殊の飛行機を造つて上空十料乃至二十料の所層に上昇し、時速二百料のスピードを出し、東京伯林十五時間世界をつぶすと云ふのであろう、...

に取つての飛行場管理機能は堂々たる大ビルディングに一括し、このビルディング内には空輸会社、遊宿省の飛行場管理事務所、郵便局、無線電信局、氣象台等互結して抱括し、更に國際航空に備へて建設される今度の税関や之に隣りて空軍航空警察官署、更に遠距離から飛来し東京飛行場のための簡易な宿泊設備と行ふと云ふのである、...

一、廿年間に百万戸を五万人と云ふ當分の計画だが其の根柢は如何、一、最初の十年間は十万户と云ふてのゝ選少ではあり、一、朝鮮移民は古い歴史を有し、朝鮮の上りと實する大なるものがある、本計画は全然之に於いての如何、...

一、滿洲移民は至極順調に行つて居り何等の懸念なし、一、廿年後の滿洲の人口は五千万人としての一割を移民としたものである、一、最初は陸路施設の上り定し、十年後には若くは完備されるので、後半は多数を移民せしめんとするものである、一、朝鮮移民は五族協和の上りとして是非必要であり、従来は漫然と移民せしめてのたが、最初總督府との互統制し、大いに奨励してゐる、...

言を答へる、

懸賞讀物選外佳作

僕に百万ペソ當つたら

益野一郎

其の日本人は赤だニヤクしおしと思つて行く事を承諾しては歸らう

「千円はお取りにおらぬ方が良いですよ、後が五月蛇いかも知れませんからね！」

僕は始めからそんな氣持は無かつた。

「金が欲しい為にはやつたのでは無く物好で相手をした迄です！」

「あ、それでせうね！」

其の日本人は如何にも感心した様だ。

其の時今迄不快な顔付きをして居た伊太利人が急に笑顔はあつて僕に話しかけた。

「今晩は全く手際の好い所を始めて見る事が出来ました、貴方の様にお日本人が此の市にお居るに居るとは思はなかつたです、幸ひ

今晩は十一時からあの人の所で」と例の日本人を指しあがり「地球倶楽部の者が来る事にあつて居るのですが貴方にも是非一度おるで

にあつて頂きたいと思ふのですが、」

彼は妙に丁寧な言葉にふつた。

僕も今迄人から此程に賞められた事も無かつた。多少得意にもあつた、今から帰るのも未だ早い

「此の部屋で一寸お待ちにあつて下さい」

と云ふ作ら扉を開けて、電燈をつけた。真中は一ツ机があるだけで外に裝飾品らしい物も見当らぬ、妙だ、とと思つてふと、扉の方を振返つた途端、パタンと扉を閉めたのと殆んど同時だつた。

僕は呆れた。とと思つたがもう遅かつた。扉は押してもピクともしぬ程頑丈に出来て居る。

扉の外で例の支那人の顔が笑ひ顔で覗いて来た。僕は一時に血が頭の上を程悔しくあつて、ドンと身体を扉に押し付けて見た。結果は同じだ。外の人がだんく速にかつて行つた。

少一ツづつ気が落付くにつれて馬鹿な真似をしたと云ふ後悔が胸に迫つて来た。どうにかあるだらう僕も多少捨鉢にあつた。金は不自由があつてもこんな迷惑に逢ふ事もあるし、世の中は思ふ様に行かぬものだと思ふ。

「あ、どうだ！」

「思はず僕は独りで吠やいた。上着の内ポケットの小さい箱がこんな時に役立つのだつた。そして、家には忠実なアントニオも居るのだと思ふと急に元氣が出て来た。僕は其の箱を出して部屋の隅の人の氣の付かない縁石所に置いた。電燈があるだけでも何か幸だ、僕がテーブルに腰を掛けて支那人の

仕事に色々に想像して見た。きつと密輸入者か何かには違ひない。その事考へて居る中にウトウトとした。

其の時、隣の部屋で女のすりすりした音がふと気が付いた。小さいけれど確かに女の泣き声だ。パタン／＼と何か叩く様な音が聞けて、三つしたかと思ふと又燃んだ。きつと女が誰かは叩かれてゐるのだらう。けれど閉切つた部屋でこんな判りきり聞へる音は、確か何處かに陳向があるに違ひないと思つて電燈を消して見た。すると、思つた通り一條の光が天井まで照した。貧乏神は陳向から覗いて見た瞬間、ハツと驚いた。

若い娘が半裸で床に倒れて居る。もはや極端な奇せる力も無いのか太股まで露にして、脊には皮筋の赤い鞭跡を残して居る。おぼろしく見ると男のズボンが、ケラツと目に映つた。結構なさつさつと支那人のと同じだ。奴だナ！と思ふと急に何人とも云へない憤りが湧き上つた。残念な事は、何んかにしても男の顔まで見ることが出来ぬ。

「おい！」

其の時突然男の音が聞へて来た。例の支那人の顔がれた声だ。

「もうい、加減にして言つたらどうだ、お前は殺される迄黙つて居るつもりか。」

女は大きく肩を呼吸して時々すりすり泣きながら居るだけで返事をしようともしぬ。女はきつと日本人に違ひない。おければ支那人が日本語で話しかける筈が、僕はさう思ふと直ぐ今にも飛込んで助けてやりたい衝動に駆られたがどうする事も出来ぬ。やがて支那人は一つ古打を置いて、パタンと扉を閉めたと思ふと、荒々しい足取りで出て行つた。

僕は陳向にあるべく口を寄せてモジ／＼と叫んで見た。女はハツ／＼とした様子は僕の方を見たが、其の目は涙に濡れて居た。何んとも云へない美しい目だ。もう一度大きく叫んで見た。女は唯だハツと僕の方を見る方を見ているだけ返事をしぬ。

「僕は日本人です、今貴女を助けようと思つて居るのですから御安心なさい！」

僕がもう一度さう叫んだ時彼女は急に輝いた。顔はあつた。

「だけと貴方も困められて居られるのでせう」

彼女はさう云ひながら僕の居る方に近寄つて来た。美しい櫻色の半裸体が目の前を来た。

「僕はお助けする自信があるのです」

僕はあるべく安心させようと思つてさう云つたが、彼女は暗い顔をして、

「次頁下段へ」

世界で誰が一番早い

短距離の進歩は遅々

米國のロバートソン及びクロムウェル

兩名コーチ対立

惜しくも公認されなかつたがベルリン大会の百メートル選で十秒二の新世界記録を出し、二百メートル走幅跳と三つの選手権を奪ったのを名残として永遠にアマチュアサークルから空を清めた。黒い肌、シニツシ！オウエンスは、世界で最も速い人間と証はれてゐる。

だが陸上競技の歴史に現れた多くの優秀な選手と較べて果してオウエンスが、世界最速の人間とあり得るかどうかが、といふ興味ある問題を米國のヘッド・コーチ、ロバートソンとこれに對立する南加大学の名コーチ、デイヴィンククロムウェルの二人が採り上げそれぞれ違つた結論を出し米國陸上界の話題を賑はしてゐる。

ロバートソンは過去から現在に亘る米國の優秀選手としてアーサー・ダフエ、シニムス、クック、ハワード・ドロー、ケヤールズ、パドック、エディ・トラン、ラルフ・メトカルフの六人を選び出した。

ダフエは一九〇二年シヨージタウソンの選手として百メートルを九秒八を出したスタートの名人。レクターは一九〇八年非公式の百メートルを九秒八を出した。九秒八といへばワイコフとオウエンスの保持する現在の公認世界記録である。

ドローは一時日本でもドリウ式スタートと称してスタートの前孔と後孔の距離を短くしその距離の二倍位前に両足を置くスタートが流行した。経緯スタートの速い選手で一九二二年のストックホルム大会では百メートル決勝で肉バネを起した。だがその翌年には百メートルの秒を走つた。

パドックは一九二〇年のアントワープ大会を以て世界の短距離界を席捲し一時百メートルを三秒五まで短縮した。世界記録を創出して彼の独創したフライング・ライツ・スタートは、ドリウ式スタートと共に日本でも憧れの的になつたことがある。

トランとメトカルフの両人は短距離の覇権を白人の手に奪つた者として今更紹介するまでもない。そこでこの六人はオウエンスを加へた七人の代表的スプリンター

一、百メートル又は百メートルのスタートに並べて用意、ドン！と一発やつたらどうなるか？ロバートソンはその戦況を次のやうに予想する。

スタートから六〇碼乃至七〇碼はダフエ、レクター、ドリウの三人が七人の中で一番速いスタート。ダフエを見れば他の選手は精神的混乱に陥るかも知れない。若しレースが百メートルでつたらオウエンス、トラン、メトカルフの三人は後半に頼る余地がある。併し距離が百碼だつたらオウエンスは彼が十のうちの二か三の確率で好調なスタートを切らぬ限り非常な危機に曝される。ストックホルム大会でドリウの快走ぶりを見た印象からいふとスタートが速いと同時に見事なスタイルを示すドリウにこそ勝味がある。若し距離が百メートルでつたら百碼から百メートル凡そ九メートル最後の勝敗が決するが、その場合はドリウとオウエンスとメトカルフの三人がその日の調子次第だといふ外はない。

かう云つてロバートソンは百碼に因する限り、世界最速の榮譽はドリウに與へらるべきだと断定して、二、三十年の間の世界のスプリンターは何れも五十歩百歩で何等本質的進歩が認められぬといふ結論して記録エリも國ひそのものに重き置き置く彼の面目を發揮してゐる。

これは對してクロムウェルはロバートソンがワイコフを無視したのは大いに見當違ひだと指摘し、このグレインデールの鳥人、ワイコフこそ並に、世界最速だ。と次々やうに主張してゐる。

ワイコフがレースの途中隨時に發揮する爆發力は金く類の赤い素暗らしさだ。その上彼は血液の精神力を持つてゐる。オウエンスの百メートル秒は給れ当りだ。併しワイコフの百メートル秒は正真正正の力である。百碼で世界最速の人間を求めればワイコフを指して外はない。

併しクロムウェルもロバートソン同様短距離の急激な進歩を認めず、現在の九秒八が正確に九秒とあるにはタフアリの十年かゝるだらうと云つてゐる。

「前頁より」私も色々計劃して逃げようとしたがとてども眼目です。私はもう死を決心して居ります。

「だけど何故貴女はそんな風に残酷に取扱はれなければならぬのですか？」

僕はさう訊かすには居らぬわかつた。

— 次号完結 —

村社の脈搏 僅か四十八

常人の三分二

村社青年選考(その)の熱心は各方面から多大の興味を持たれてゐるが去月末大阪を訪れた折、折々ボツボツと研究して有名大阪北野病院では特に村社選考の末院を求め、ア内科の小林博士、外科の大岡、神谷の鈴木博士が、検査も体格検査を行つた結果身長一六二・五

算盤、麻雀、各種 日本食器類

原商店

Beppano 470
Kawabuchi 470

キリスト教青年ホーム

ペンション 定期又は一時的

聖書の研究 毎土曜日夜八時

郵便物取扱 御来会自由

市内カサノ街一九八三
四一三三一九八七

守屋保吉

クツロブ党與

コンコルダンシア派の

正副大統領候補遂に決定

オルティス蔵相とカステイロ内相

九月の大統領選挙に對して既にL.C. R. 党及び社会党は各々正副大統領候補者を選定、政敵の準備を整へてゐるが、デモクラティック・ナショナルを軸とする現政府府與党アロック、コンコルダンシア派に於ては大統領候補として現職相ロベルト・オルティスを推すに一致せしむるも副大統領候補に關しては意見一致せず、其の中で最も有力視されるは現上院副議長ロブス・アインバドロン、コスタ並に現農相ミゲル・アンヘル・カルカノであつたが、去る十四日開催されたコンコルダンシア派の地方代表委員会議で協議の結果遂に現内相ラモン・カステイロを推すに決定、来る廿三日に党大会を開き、愈々オルティス・カステイロ二名の大統領候補の名乗りを挙げる事とあつた。

何故に副大統領候補として派内に争争が高かつたカルカノ農相若くはバドロン・コスタが選定されたか、かつたか、云ふ理由に關しては、コルドバ・アエス・アイレス、ヨリエンテス三州の党員によつて支持される、カルカノ農相を選定せんとすれば、バドロン・コスタ派のメンドーザ、サンファン、セントレリアス其他六州

オルティス蔵相及カステイロ内相は正副大統領に候補し政敵に出馬する事にあつたので来る廿三日、田項フスト大統領候補表提出の予定である。

後任は?

蔵相の後任は、關してはナショナル銀行副總裁カルロス・アルベルト・アセベドが有力視されて居り、内相に關しては後任を任命せず現土木相マヌエル・アルバラドが兼務するものと見られる。

蔵相、内相 二、三日中に辞表提出

喧嘩口論鉄拳の雨

電力市営案剽竊問題で 社会党議員議場で大立廻り

十五日の都市委員会に電力市営案が、そのものが社会党議員イニゴ・カレラによつて提出されたが、社会党内に於て分立した労働者社会党の議員ルソマンノは、

「同案は自分が社会党議員であつた時昨年市会に提出した電力市営案即ちイタロ・アルヘンテナ電力会社を市で経営することに、其の買収費は市債発行で此を得よう」と云ふ案と同様で、違ふ所はイタロ・アルヘンテナ電力会社とあるを二つの電力会社を買収せよと改めただけである。同案は反対



にして提出したものであつて剽竊を云々せざるべき筋合ではない」と應酬。

今度労働者社会党のゴメスが社会党のラビーナ及びフスト両議員を痛罵、選挙の剽竊問題で槍玉にあげ、ラビーナはこれに應酬し更に労働者社会党議員の選挙に關し確証を述べたもの、如き口吻を

「興奮の余り激越する言辭を用ひてやり返す、茲に社会党議員総立ちとなり議場騒然、討論中此の叫びが彼處此處に起る、議長頻りに議場警備を命ずるべしと鳴らしたて、どうやら静かになつたと思ふ頃合、ウナムノ、ソッカく」とラビーナの方に近づき激しく顔面を殴打、急遽に自分自身階段を踏みはずして連記席正面まで、倒

大統領閣僚臨席の下に

一大人綱工場落成式挙行 工事費三千四百万ペソ

千てエリキルメス直ぐのベラサチキ取とエスベレタ取間に建築中である。建設坪四万八千七百七平方、建築費三千四百万ペソといふレイオン製煉鉄会社「ツシロ」の一大人綱工場が完成、去る十五日午後フスト大統領以下内相、外相、農相、陸相、武州正副知事其他財界の巨頭等朝名の名士六百名臨席の下に盛大

・誌 雜 籍 書・
日本の各種雑誌、新聞、月刊、季刊、年刊、他、速報に取次販売致します。
市内カセス街一九八三
市内カセス街一九八三
市内カセス街一九八三
蔵田書店
・取 約 特 下・

ある落成式が挙行されたが、席上同社社長配人フランシスコ・マテレゴルは工事の沿革を述べ、総工費中五百四十万ペソは国内建築材料購入のたため、機械設備共他、総ての費用は世界最新式のものであり、事業開始の際には男女二千名を必要とし、一分割に賃賃する水量二万リットル、使用総動力六千馬力、使用原料四万七等につぎレイオン製造過程を説明、後ラシナの響應あり招待者一同は工場を巡視した。

向同社の資本系統は不明である。

貿易市場調査は

中南米に集中せよ

亜國は最も重要なる市場

故國の認識此處に正るる

世界列強の最大輸出品市場として、亦豊富の資源供給地として垂涎の的たるラテンアメリカに對する我が故國朝野の認識は近來著しく是正せられ、概中これら中南米諸國のうち最も重要なる市場と目される、亞國に對しても近く大規模の經濟使節團が派遣されるであらうと云ふことは本紙既報の如くであるが、この日本經濟使節團亞國派遣報告を適確に裏書するものは最近商工省より日本商工會議所を経て海外市場調査團派遣方法に關し意見を求められたる東京商工會議所の商工省當局に對する答申内容である。

東商の意見に上れば限られたる經費で余りに広汎なる市場調査を行はんとすれば結局効果を得ず得ないから予定經費を中南米のみ集中せよと云ふにある

東商の答申内容は左の如くである

一 本年度に於ける海外市場調査南洋班、近東阿弗利加班を中止し専ら中南米班に全力を集中し、以て調査として果敢の目的積極的であらしむるを得策と思考す。蓋

同策ニ求償貿易を對照とする場合の各國主要原料品の本邦に對する輸入の可能性(品質、價格、輸送の方法、代金決済方法等を含む)並に多角貿易實現可能性三、本邦輸出品に對する需用の程度及び輸出可能性並に外國競争品の状況商品見本の蒐集、当該市場の購買力の程度並に需要者の嗜好の變遷四、当該國に於ける本邦品に對する競争品の生産能力の將來及び各國投資關係

五、計畫上参考と爲るべき事項

一 全國商工業者の代表的機關である日本商工會議所に委任經營せしむるか又は商工省と日本商工會議所が共同事業とすべきを以て最も適當のりと思惟する。二 調査團は當業者の外交吏、中南米の生産品に就き知識ある専門家、調査に堪能なる學識ある者、商工會議所其他商工業團體の職員、中南米の事情に精通せる者十名以内を以て組織すべきものとす。三 期間は八月とす。蓋し期間六月は調査の性質上及び技術的にも短きに失するが故に八月を以て適當と思惟す

バラグアイ移民

バラグアイ移民の新事業は創設以來未だ半分の努力報ひられて俄々確乎たる基礎を築きつゝ、あつたが昨年棉花其他の難作不作続きで此の

誕生祝

齊藤彦藏氏は来る二十七日、日本人會館に知友多数を招き初孫マリオ君の第一回誕生祝の盛宴を張る由である。

まにら丸

廿六日入港
七月二日出帆

花弁組合の臨時總會

花弁同業組合は去る十六日午前十時より、まつや旅館に合議会を開き高上たの件を審議決定。

一 團體試驗場設立に對する臨時總會を来る七月九日午前十時、日會館に於て開催する

一 カネーニシン品評会を来る七月八、九日両日に亘り日會館で開催

「亞國新聞」の発刊

予て熊沢太郎氏並に西坂貞藏氏共營の下に著々準備中であつた同業紙「亞國新聞」は、此の程五月廿五日附を以て亞國獨立紀念号と兼ねた創刊号を發行した。

同紙創刊号は内容九十頁各方面人の奇稿を満載、新活字による印刷亦鮮明美麗である。向は同社社長は熊沢太郎氏、論說欄には元週刊ブラスアイレス社長杉本重三郎氏が執筆する模様であり、当分一週三回(火木土)タブロイド版毎号六頁發行の由。

KEROFIX
DEL SR. ALEMAN (MARTIN)
M SEITZ & Cia

EXPOSICION Y VENTA TALLERES
DEFENSA 321 CHARCAS 4511
U.T. 33-AV-1529 U.T. 71-3998

プランケヤ機、カルテラ用のケマドリース、デケロセン製作販売、修繕取付並に交換格安にて引受けます

当方はカーサホルカン在勤當時から御馴染みのドイツ人で日本人諸君向に数多の顧客を有し仕事は入念迅速、電話で御一報次至急参上致し得

ケロフィス
セイツ商会

請演

日亞文化協會は来る廿四日午後六時よりワイアモニテ街一四三五の同會で講演会を催す。講師は齊藤彦藏氏、演題は「教育日本一其の文化的活動」

「亞國新聞」の発刊

予て熊沢太郎氏並に西坂貞藏氏共營の下に著々準備中であつた同業紙「亞國新聞」は、此の程五月廿五日附を以て亞國獨立紀念号と兼ねた創刊号を發行した。

Cursó de Literatura Japonésa

El señor Takeshi Furukawa inició según anunciado oportunamente, su curso de literatura japonesa, en castellano, instituido por el Cultural Argentino—Japonés, el sábado último a las 17 horas.

Ante un público numeroso que llenaba el salón de Actos del Museo Social Argentino, entre el cual notamos muchas familias, siendo más de treinta los inscriptos al curso, que es bien notable, disertó en esa primera clase sobre el tema: "Breve reseña de la historia de la literatura japonesa".

El señor Furukawa comenzó analizando los orígenes del Japón, la fundación del Imperio que data de 26 siglos, de los habitantes primitivos y de las costumbres, para narrar el estado de la literatura del período arcaico, siguiendo luego la evolución de la misma, hasta la época de Kamakura, o sea la primera edad del feudalismo japonés, explicando en cada caso las tendencias que reinaron en su literatura, que no es otra cosa que el reflejo de los pensamientos, idas y cultura del pueblo.

Recordó, como es natural, las influencias extranjeras, especialmente del Budismo, de Confucio y sobre todo de la escritura chinesca.

Citó, para cada período examinado, las obras y autores renombrados, así como de sus características, haciendo algunas comparaciones con la literatura hispana, que también conoce a fondo el catedrático.

El señor Furukawa fué calurosamente felicitado al terminar. En la próxima clase que dará el sábado 10 de julio, terminará con la segunda parte de la "Reseña histórica de la literatura japonesa", para continuar en la venidera la parte principal de su conferencia que se versará sobre la literatura contemporánea.

A propósito de las Becas Japonésas

Se hallan libradas a concursos, por invitación del Instituto Cultural Argentino—Japonés del Museo Social Argentino, con sede en la calle Viamonte 1435 de esta capital, dos becas para estudiar en el Japón: una para la cultura japonesa, y la otra, para ciencias.

La invitación de la Institución Internacional de Estudiantes tiene por fin facilitar a los estudiosos argentinos para realizar estudios e investigaciones: para que hagan los estudios directos radicados allí sobre la cultura peculiar del Japón que aquí se conocen a fondo las condiciones de adelanto científico a que ha alcanzado ese país.

Abre así, por vez primera, las puertas del intercambio estudiantil entre la argentina y el japonés.

El Instituto Cultural Argentino—Japonés, cuyo prestigio es ya reconocido en las esferas oficiales del Japón, al cual fuera confiada la misión de llevar al terreno de la práctica ese proyecto, no sólo la ha aceptado con verdadero entusiasmo, sino que ha respondido con la generosa resolución de costear por su cuenta el pasaje del becado que no entra en el ofrecimiento japonés.

Y, grato como es la iniciativa japonesa, y plau-

sible el acogimiento que ella tuvo en el seno del Cultural Argentino—Japonés, es digno de notarse el interés con que ha sido recibido la noticia entre la juventud estudiosa de este país, que revela el afán de estudiar y de progresar, sintoma feliz del país progresista.

Ahora que el asunto está en manos de la Comisión encargada del asunto, nada tendríamos que adelantar por parte nuestra. Pero, sin pretender a formular consejos ni cosa parecida que no nos incumbe, quisieramos sugerir algunas indicaciones para los aspirantes a las becas de referencias, por considerarlas útiles.

El clima del Japón, tomando en terminos generales, no varía mucho del de la Provincia de Buenos Aires, si bien más frío en el invierno, quiero decir que el argentino que se radique en Tokio o en Kioto, no sufrirá nada, a este respecto.

Es conveniente que el aspirante tenga conocimiento del idioma inglés, alemán o francés, lo suficiente para seguir cualquier curso de lectura, además de la utilidad, si no la necesidad, de poseer algunos conocimientos del idioma nippon.

En cuanto al estudio de la cultura japonesa—ya no se habla hoy de ver y de observar lo exótico de las cosas orientales—deberá llegar al Japón libre de todo prejuicio, dispuesto a estudiar la estructura del país y su pueblo, sus costumbres, sus ideas y pensamientos, tal como realmente son. Deberán seguir las indicaciones que les sugerirán los expertos y profesores encargados de guiarlos y aconsejarlos. Deben, necesariamente, reservar su juicio personal hasta que tengan todos los elementos que los capacite formular comentarios.

Los occidentales tienen, por lo general, el hábito de hacer las comparaciones inmediatamente de observar superficialmente las cosas, sin investigar a fondo la realidad y la razón de ser tales cosas.

El Japón que confía que los hombres de estudio del nuevo mundo pueden estar capacitados a pensar y juzgan las cosas, sin esa anacrónica pedantería occidental, y que pueden ambicionar a crear una nueva civilización americana, aspira que lleguen a comprender la civilización y cultura japonesa, tal como lo han comprendido muchos hombres conocidos de la Argentina, tales como Martín García Merou, Estanislao S. Zeballos, Manuel Domecq García, José Luis Murature, Rodolfo Moreno y otros que reconocieron y reconocen la importancia de la cultura del Japón que ha realizado una evolución maravillosa que no tiene precedentes en la historia humana.

Además, los ideales del pueblo japonés son las mismas que palpitan en los corazones argentinos. La verdad, lo bello y lo justo son principios básicos que han recogido siempre en todas partes.

Una perfecta comprensión entre la Argentina y el Japón sería el medio directo para señalar al mundo entero el verdadero camino a seguir para la armonización universal, y por donde la paz de todos los pueblos.

Con estas consideraciones breves, pero sinceras, significamos que la responsabilidad de los becados argentinos que irán al Japón, es grande y seria, como corresponde a la gran nación a que pertenecen.

Declaración del Primer Ministro

Tokio, junio 13 — El Primer Ministro, Principe Fumimaro Konoye, hizo las siguientes declaraciones a los representantes de la prensa:

"Jamás tuve la intención de patrocinar la organización de un nuevo partido político gubernamental, del cual tanto se habló. La elección de los miembros de mi gabinete respondió únicamente al talento de los mismos y jamás tuve tal propósito. Un nuevo partido no puede formarse en un día. La mejor solución residiría en que los distintos partidos políticos existentes se rejuvenezcan mediante una disciplina voluntaria".

El presidente del Consejo admitió que deseaba reformar la Cámara de los Pares (Nobles), pese a los numerosos problemas técnicos que plantearía tal reforma.

El Principe agregó: "La política del gobierno es de no agresión. No queremos apoyarnos en la fuerza armada".

Conferecia Imperial Britanica

Por la importancia que tiene para el mundo entero las resoluciones tomadas por los representantes de los dominios del Imperio Británico reunidos en Londres, damos a continuación el informe que llegó a un convenio general sobre puntos relacionados con las relaciones exteriores, a saber:

- 1.º La principal finalidad para la comunidad de naciones británicas es la conservación de la paz.
- 2.º Determinación de basar la política del imperio en la Sociedad de las Naciones y de jamás utilizar los armamentos para una agresión.
- 3.º Conveniencia de reforzar la influencia de la Sociedad de las Naciones aumentando el número de sus miembros, e instando al mismo tiempo a separar los tratados de paz del pacto de la entidad ginebrina.
- 4.º Los delegados encuentran aceptables, los pactos regionales siempre que contribuyan a la paz y que no estén en contradicción con el de la Sociedad de las Naciones.
- 5.º Se conviene en que sería deseable firmar un pacto de no agresión en el Pacífico después de discutirse el punto.
- 6.º Se expresa el deseo de que se tomen las más amplias medidas posibles en favor del desarme, pero se reconoce al mismo tiempo el deber del imperio de mantener sus defensas en el nivel esencial para su propia seguridad y para el cumplimiento de sus obligaciones.
- 7.º Se manifiesta el deseo de continuar cooperando y consultándose con relación al mantenimiento de la paz mundial.
- 8.º Los países participantes se declaran dispuestos a cooperar con otras naciones en el estudio de las actuales dificultades, incluyendo las barreras aduaneras y otros obstáculos, con el fin de aumentar el comercio internacional y mejorar el nivel general de vida.

SINTONICE EL PROGRAMA DE LA

Osaka Shosen Kaisha

todos los miércoles a las 19 horas.

POR



**RADIO
EXCELSIOR**

LAMPARAS "YAMADA" DE CALIDAD



Luz Clara - Terminación Prolíja - Selección Especial

USE LAMPARA "YAMADA"

En venta en las buenas casas del ramo

¡Beba buen café!

EL CAFE DE SANTOS "AGUILA" está elaborado con los mejores cafés que se importan del Brasil, tostados y con un 10 o/o de azúcar abrigantado. ¡Nada más!

Muchos cafés que por ahí se expenden, ¿podrían afirmar otro tanto?

Deduzca Vd. y prefiera el

CAFE DE SANTOS "AGUILA"

ES UN PRODUCTO SAINT.

TRADICIONES JAPONESAS

Por F. WAKATSUKI

EL CRISANTEMO Y EL AGUA

Uno de los nombres más brillantes de los anales japoneses es el de la familia Kusunoki, célebre por su fidelidad al Emperador. El clan de Kusunoki llevaba en su escudo de armas el crisantemo y el agua.

Kusunoki Masashige (Apellido y nombre respectivamente, que así se usa en el Japón) era un general del siglo XIV. Cuando estaba en el campo de Sakurai terminando los preparativos de la batalla, que había de poner fin a la lucha contra los rebeldes, pensó que sería prudente mandar a su casa con su mujer a su hijo, el joven Masatsura.

Masashige sufrió la derrota y pronto llegó la noticia de la muerte del general que hirió a su familia. Masatsura cayó en una profunda melancolía. Abrumado por la pena, entró en la sala en donde guardan las tablillas fúnebres consagradas a las almas de los antecesores difuntas. En la religión japonesa budista, el difunto recibe un nombre postumo que se inscribe sobre una tablilla de madera ante la cual se recitan oraciones y se queman incienso. Las tablillas de todos los miembros difuntos de la familia se reúnen en un altar o en una habitación especial.

La madre de Masatsura, a pesar de la gran tristeza en que estaba sumida, adivinó la resolución de su hijo, que, había decidido matarse con un pequeño sable que Masashige le había dejado en recuerdo.

La madre detuvo al hijo, diciendole:

—¡Masatsura has vuleto loco! He oído decir que el "SENDAN" huele bien desde que tiene dos hojas. Si eres digno hijo de tu padre, reflexiona con tranquilidad. Tu padre te alejó del campamento para que tu, a tu vez pudieses servir al Emperador. Este sable que te legó no está destinado a darte muerte. No fué seguramente ésta la voluntad suprema de tu padre. Puesto que ya no existe, corresponde a tí luchar contra los rebeldes y destruirlos, para devolver la tranquilidad al corazón del Emperador. No hay que olvidar esto. Tienes ya once años y debes comprender lo que digo.

De esta suerte, siguiendo el consejo de la madre, se preparó y organizó ejército a su mando para continuar la obra de su padre en compañía de su hermano. Tuvieron estos guerreros alternativas en la lucha cruenta y larga, en tanto que los rebeldes se hacían cada vez más numerosos y poderosos. Antes de librar la última batalla, el héroe y su hermano, acompañados por ciento cuarenta jefes escogidos entre los mejores y que habían jurado todos vencer o morir, se trasladaron a palacio para despedirse del Emperador.

Cuando se hubieron despedido del soberano y hubieron salido del palacio, Masatsura cogió una flecha y grabó los nombres de sus valientes camaradas en una tablilla colocada contra la muralla de un pequeño templo. Y a renglón seguido escribió este poema:

"Como las flechas lanzadas por el arco de Azusa,
Pienso que nuestra suerte
Es no volver jamás.
Y dejo aquí los nombres

de los que van a entrar en el reino de los muertos».

Hecho esto, Masatsura entró a librar la celebre batalla de Shijonawate. El enemigo disponía de sesenta mil hombres contra seis mil del ejército real. La lucha fué tremenda y las tropas de Masatsura acabaron por sucumbir... Casi todos los soldados estaban muertos, Masatsura y su hermano, heridos. En vista de la situación, Masatsura, diciéndole que "si morimos a mano del enemigo perdemos la honra", invitó a su hermano a suicidarse, y se mataron mutuamente antes que alcanzaran los rebeldes.

Los Kusunoki constituyen el símbolo de la lealtad al Emperador y viven eternamente en el corazón del pueblo y recuerda aún hoy el escudo de la familia: Petalos del crisantemo flotando sobre el agua. Dibujo que se utilizan hasta en los adornos de las habitaciones o sobre cualquier objeto de arte o de uso común.

ENCICLOPEDIA JAPONICA EN INGLES

El Boletín Mensual de la Kokusai Bunka Shinkokai correspondiente al mes de abril p.p.d., trae la noticia de que la comisión encargada de estudiar la compilación de la Enciclopedia Japónica en idioma inglés que será editada por la mencionada institución, ha dado término a su cometido, iniciándose la redacción del informe correspondiente.

La obra que tiene por objeto presentar a los estudiosos extranjeros las informaciones completas de cosas y hechos del Japón, será un monumento cultural que facilitará grandemente la difusión de conocimientos acerca del Japón y de los japoneses.

"NAMBEI"
Compañía de Importación y Exportación Sociedad Anónima
Telegramas "NAMBEI"
U. T. (33) 3001, 3002, 3003, 3004, 3008 y 3571
T. T. Buenos Aires, 904
SARMIENTO 470 BUENOS AIRES

K. ANNO
The National City Bank of New York
BARTOLOME MITRE 502
U. T. Avenida 33 - 4031

H. KATO
Unica Fábrica Japonesa de Tejidos de Sedas y Gran Instalación de Tintorería
HERRERA 2097 y 2111 - U. T. 21-1841

SADAO HATTORI
IMPORTADOR
Especialidad en artículos de Cepillería
LINIERS 649 - U. T. 45, Loria 221P

KATSUDA y Cía.
Importadores
MEXICO 1474 - U. T. 38, Mayo 2313

B. TAKINAMI
Importador
Casa Establecida en el año 1905
VICTORIA 733 - U. T. Mayo 36-3413

I. HIROTA
Importador de artículos generales del Japón
CHILE 1089 - U. T. 37 (Riv.) 1051

A. HANAFUSA
Representante de
Mitsubishi Shoji Kaisha, Ltda.
FLORIDA 229 U. T. 38-5469

S. YAMADA y Cía.
Importadores
MORENO 2039
U. T. Cuyo, 47-4354 y 4405

IIDA y Cía. Ltda.
(Takashimaya)
Importadores y Exportadores
RODRIGUEZ PEÑA 182
U. T. Mayo 38-9419

R. HARA y Cía.
Importadores
BELGRANO 1470
U. T. Mayo 38-2438 y 9437

CARLOS C. ISHIY
Importador y Exportador
Bm6. MITRE 341 - U. T. 38 Avda. 9782

S. YOKOBORI
Representante de FUJISAKI y Cía.
CANGALLO 499
3er. Piso Escr. N.º 21-22 - U. T. 33-9390

TARO MURAI
Unica Casa Introdutora de Porcelana "NORITAKE"
MAIPU 463 - U. T. Retiro 31-3180

F. KANEMATSU y Cía. Ltda.
Importaciones y Exportaciones
JUJUY 136 - U. T. 45, Loria 5823 y 5824

PIDA SIEMPRE
Marca KANEBO
PARA TEJIDOS
Avda. ROQUE SAENZ PEÑA 989
U. T. 35-7632 8.º piso Oficina D

M. OMURA
Importador de artículos generales del Japón
SAN MARTIN 225 - U. T. 33-2683

S. ANDO y Cía.
Importadores
BERNARDO DE IRIGOYEN 143
U. T. Mayo 38-1402

JIRO HONDA y Hno.
Importadores de Artículos Generales del Japón
MORENO 1320 - U. T. 38 Mayo 2718

Casa "YAMANAKA"
Oriental Fine Art Curious
VIAMONTE 624 - U. T. 31 7846

K. YASUNAGA
Compañía Argentina, Comercial e Industrial de Pesquería
DEFENSA 1597 - U. T. 36-7769

S. TSUJI
Importador
BALCARCE 682 - U. T. 33 Avda. 5744

LA MAISON SATUMA
K. YOKOHAMA
Objetos de Arte y Antigüedades
ESMERALDA 1080 - U. T. 31-8601
Sucursal:
SUIPACHA 865 - U. T. 31-4837

Sastrería JAPONESA
Fundada en el año 1916 de S. KATAYAMA
PIEDRAS 572 - U. T. 33-5462

GUIA JAPONESA
LEGACION DEL JAPON: Reconquista 336. - U. T. 31-3193.

CONSULADO DEL JAPON: Reconquista 336. U. T. 31-3193.

CAMARA DE COMERCIO JAPONESA: Avenida Roque Sáenz Peña 618. - U. T. 33-1462.

INSTITUTO CULTURAL ARGENTINO-JAPONES: Viamonte 1435.

ASOCIACION JAPONESA: Patagones 840. - U. T. 23-4893.

COMPANIA DE VAPORES O. S. K.: ROQUE S. PEÑA 616 - 2.º Piso U. T. 33-1051 - 1052 - 1053 y 3565